

悪しき靈による背信

ホセア書5章

彼らのおこないは彼らを神に帰らせない。それは淫行の靈が彼らのうちにあつて、主を知ることができないからだ。(4)

ここにはイスラエルの罪に対する神の怒りと裁きが記されています。その裁きとは、神を知ることを拒んで罪に陥つてゐること自体がすでに神の裁きであるといふのです。

イスラエルにとつて恐ろしいことは、悔い改めの可能性が取り去られることです。聖書において、悔い改めは「神に帰る」こととして表現されますが、ここでは「彼らのおこないは彼らを神に帰らせない」と言われています。神に帰ることを不可能にしているのは、淫行の靈が彼らの内にあるからです。ここでいう淫行とは、主を離れてバアル神を礼拝することです。そのバアルの神殿には神殿娼婦があり、礼拝者たちはそこで姦淫の罪にふけていました。そのような意味において、彼らの淫行は宗教的・肉体的な二重のものとなつていました。その淫行の靈が彼らのうちから取り去られない限り、預言者がどんなに熱心に神のことを語つても、彼らは主を知ることができないと断言されています。主を知るとは、知識において神がどのような方であるかを知ることではありません。生命的な関係において、「この方こそわたしの主」と告白するに至ることです。

神の言葉に耳を傾ける前に、まずわたしたちの内から神以外のものに心を寄せようとする靈を取り除かなければなりません。命の關係において主を知るために必要なのです。